

「北海道マリンビジョン21コンテスト」受賞地域決定のお知らせ！

北海道開発局では、将来にわたって全国の水産食料基地としての北海道の大切な役割を守り育てていくため、活力ある北海道の水産業と漁村の将来像を示した「北海道マリンビジョン21」を平成16年6月に策定しました。

これを踏まえて、各地域においては、漁業者だけでなく様々な地域の関係者により、水産業を核とした地域振興方針となる「地域マリンビジョン」を策定しています。

現在、全道27地域で地域マリンビジョンが策定されており、各地域では、衛生管理の強化、ブランド化、水産物オーナー制度、食育、海の森づくり、水産業と観光の連携などの様々な取り組みが行われています。北海道開発局では、これらの内、他のお手本となる地域を「モデル地域」として指定（現在13地域）するなど、地域の関係者と一体となりマリンビジョンの実現に取り組んでいるところです。

また、地域マリンビジョンを策定した市町と関係漁業協同組合は、「北海道マリンビジョン21促進期成会」を結成して、魅力ある漁業地域づくりを促進するため、各地域間の情報交換・交流、広報活動を行っています。

北海道マリンビジョン21促進期成会では、各地域マリンビジョンの取り組みの更なる推進や優良な取り組みの他地域への普及を図るため、今年度より各地域の優れた取り組みを表彰する

「北海道マリンビジョン21コンテスト」を開催しました。北海道開発局においても、本コンテストを通じ、各地域の取り組みを応援するため、コンテストの後援を行っています。

コンテストは、総合部門（北海道開発局長賞）と個別取り組み部門（期成会会長賞）の2つの部門で実施されました。

総合部門は、モデル地域を対象とし、計画された取り組みが着実に実行され、地域マリンビジョンの総体として、特に他地域のモデルとなることが期待される地域を表彰します。また、個別取り組み部門は、地域マリンビジョンの策定を通じて開始又は発展された取り組みを対象に、地域マリンビジョンの実現に貢献し、他地域への波及と持続性が期待される優れた取り組みを表彰します。

授賞地域は、平成21年2月4日の「北海道マリンビジョン21コンテスト審査委員会」において選定されました。

個別取り組み部門の応募件数は、12地域からの応募があり、厳正な審査の結果、総合部門は、根室地域（歯舞地区）。個別取り組み部門は、遠別地域、室蘭追直地域、根室地域（落石地区・歯舞地区協働）が選定されました。

なお、本コンテストについては来年度も引き続き実施される予定となっています。



北海道マリンビジョン21コンテスト審査委員会

委員長

長野 章 氏 公立ほこだて未来大学教授

委員

かとうけいこ 氏 シーニックバイウェイ支援センター事務局長

佐々木宏治 氏 北海道漁業協同組合連合会代表理事常務

高嶺 彰 氏 北海道開発局農業水産部長

ヒロ 中田 氏 北海道じゃらん編集長

山下 成治 氏 北海道大学大学院准教授

妻 小波 氏 東京海洋大学教授

(五十音順)

□受賞地域

総合部門

(北海道開発局長賞)

- ・根室地域歯舞地区マリンビジョン
～最東端の海からのメッセージ～

個別取組部門

(北海道マリンビジョン21促進期成会会長賞)

- ・ひらめ底建網 in 遠別
遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会
- ・養殖漁場での生産から食卓での消費まで一貫したクロソイのブランド化
室蘭直直地域マリンビジョン協議会
- ・新・ご当地グルメ「根室さんまロール寿司」
開発・普及事業
根室地域(落石地区マリンビジョン協議会・
歯舞地区マリンビジョン協議会) 協働事業

総合部門

(北海道開発局長賞)

○根室地域歯舞地区マリンビジョン

～最東端の海からのメッセージ～

「根室地域歯舞地区マリンビジョン」は、歯舞水産物のブランド化を中心テーマに位置づけ、ブランド化への取り組みを通じた漁業振興と納沙布岬観光の振興による地域の活性化に向けて関係者が一体となって取り組み、活気のあふれる地域づくりを目指すものです。

「一本立ち歯舞さんま」等のブランドを開発したほか、北方領土・歯舞群島を眺めることができる遊覧船の運航を開始するとともに、日本一遅く咲く桜並木の整備等が実施されています。

【選定理由】

歯舞水産物のブランド化による地域経済への波及効果が見られ、遊覧船の運航等、非常に困難な事業を実現させている。また、マリンビジョンの実現に向け、地域が一丸となった取り組みも評価できる。



歯舞ブランド「1本立ち歯舞さんま」



遊覧船を楽しむ乗客

個別取組部門

(北海道マリンビジョン21促進期成会会長賞)

○ひらめ底建網 in 遠別

遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会

遠別産及び留萌管内の「ヒラメ」を全道・全国にPRするため、ヒラメのオーナー制度を行っています。オーナー制度は、ヒラメを捕る漁船のオーナーとなり、捕ったヒラメをオーナーで分配する取り組みです。また、オーナーには、海からのヒラメやヒラメのさばき方講座などのイベントに参加する資格が与えられます。昨年は、120名の募集枠に対し全国36都道府県から約900名の応募がありました。

【選定理由】

漁業情勢が非常に厳しい日本海側において地域の活性化が期待できる取り組みである。また、シーニックバイウエイの「萌える天北オロロンルート」との連携は効果の広域性といった観点でも評価できる。



ヒラメオーナーの抽選会の様子



ヒラメ底建網オーナーイベント風景

○養殖漁場での生産から食卓での消費まで一貫したクロソイのブランド化

室蘭追直地域マリンビジョン協議会

工業の町のイメージのある室蘭市は、海に囲まれ水産資源に恵まれた港町でもあります。「さかなのマチ」としての魅力をアピールするため、室蘭の魚に指定されているクロソイのブランド化に取り組んでいます。

オーナー制度や地元飲食店へのクロソイの提供、料理開発、レシピ本の作成などクロソイの魅力をPRしています。

【選定理由】

今後、追直漁港で整備予定の人工島（Mランド）を拠点としたクロソイ養殖の拡大を念頭においた戦略的な取り組みである。また、札幌への流通も念頭においており、今後の安定的な供給・消費が見込まれる。



オーナーによる給餌体験



クロソイの試食会の様子

○新・ご当地グルメ「根室さんまロール寿司」開発・普及事業』

根室地域(落石地区マリンビジョン協議会・歯舞地区マリンビジョン協議会) 協働事業

地元水産物のPR、消費拡大、交流人口の増大を図るため、根室ならではの新・ご当地メニュー「根室さんまロール寿司」を開発しました。

開発に当たっては、全国一の水揚げを誇るサンマ、歯舞昆布などの地場の新鮮で良質な水産物、北海道食材にこだわるなど10のルールを設けています。

発売開始から約半年間で約7千本を売り上げる等、特に観光客には根室観光の新たな目玉として好評を博しています。

【選定理由】

行政、漁協、観光業、飲食業等、地域一丸となった試行錯誤の末、短期間で、商品開発・販売を実現させており、他の地域もお手本とすべき理想的な取り組みである。また、2つの地域マリンビジョン間が連携した初の取り組みであり、効果の広域性といった観点でも評価できる。



根室のサンマ・サオマエコップと道産米を使用し「根室さんまロール寿司」



根室さんまロール寿司マーク